

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣

令和六年六月度 入賞句一覧

投句数 千三百五十二句

特選

星野 勝 選

春うららピンクのふくでお出かけだ

大垣市

かく本 すずは（小二）

心が弾むような春の喜びをうまく俳句に表現することができました。暖かくなつて、天気の良い休日に、ご家族と一緒に出かけしたのでしようね。お気に入りの服を着て元氣よく玄関をとり出していく作者の姿が目には浮かぶようです。特に「ピンクのふく」が、春にぴったりで、季語が表す春のどこではればれとした雰囲気との取り合わせもうまく表現することができました。

初夏むかえ空色変わる日曜日

大垣市

こだま あおい（小六）

季節の変わり目を何で感じるかは人それぞれですね。作者は春から夏への季節の變化を「空色」で実感したようです。休日にくつろぎに出て空を見上げると、それまで見ていた空とは違う色に見えたというのです。言われてみれば、確かに夏の空は春の空より濃く見えますね。そして真つ白な入道雲も見えてきそうな気がします。日常の何気ない発見を見逃さず、見事に十七音におさめることができました。

風鈴にそそのかされて廻り道

加茂郡川辺町

河合 優菜（中二）

以前は夏になると多くの家の軒下で風を受け、「風鈴」は涼しげな音を響かせていました。そんな「風鈴」も、最近は見かけることが少なくなりました。作者は、下校中だったのしょうか。途中どこからか風鈴の涼しげな音が聞こえてきたのでしょうか。その音に誘われるかのようには家路から外れて引き寄せられていったようです。「風鈴」を擬人化した「そそのかされる」の表現が絶妙です。魔法にかけられたような不思議な空間を想像させられました。

秀逸

わき水の音の聞える夏の昼

大垣市

川瀬 咲来（中一）

日焼け止めぬりたくつてる休み時間

加茂郡川辺町

佐藤 柚杏（中三）

汗臭いシューズの香る体育館

加茂郡川辺町

座間 心美（中三）

あさがおが子供の声で笑つてる

加茂郡川辺町

渡辺 かやの（中三）

ああこわいぼくのじてんしゃくものすだ

大垣市

なか村 友ご（小三）

かざぐるまとけいまわりにまわつてる

大垣市

こまつ よしき（小二）

あめあがりそらにおおきなじのはし

大垣市

木村 心音（小三）

ふうりんがゆらゆらゆれて夏をよぶ

大垣市

まるやま ふみか（小三）

葉を食べる食べないはありさくらもち

大垣市

高橋 輝（小五）

山にさく桜はまるで帯のよう

大垣市

金城 海鈴（小五）

入選

大垣の夏風かおる水面かな

大垣市

佐竹 里菜（中二）

はいチーズ向日葵みたいあの笑顔

加茂郡川辺町

福園 恵菜（中二）

若緑きれいな色にはげまされ

加茂郡川辺町

藤井 咲多（中二）

金魚すくい紙破れたり敗れたり

加茂郡川辺町

有本 樹奈（中三）

夕立であわてて洗たくしまう母

加茂郡川辺町

三宅 壘斗（中三）

かけぬける大きな希望新樹光

不破郡垂井町

川瀬 宗顕（中一）

ぷーるはねたのしいけれどむしがいる

大垣市

小川 かのは（小三）

春野菜いろんな県のいただきます

大垣市

山崎 夢架（小五）

しゃくやくのはなのドレスだ着たくなる

大垣市

加藤 衣織（小五）

たんぽぽが心合わせておどってる

大垣市

三輪 柑菜（小五）

夏の雨やる気がなくてズルやすみ

大垣市

桑原 百那（小六）

夏の風私の心はふるさとへ

大垣市

鈴木 佐和（小六）

くちのなかいつきにほつきよくかきごおり

大垣市

仙田 栞理（小二）

あまやどりはつぱの下にかたつむり

大垣市

ながさわ あきら（小二）

ゆかたきておばやけしきにはいつてく

大垣市

戸谷 ゆうり（小三）

はるのみちさくらがちつてみちになる

大垣市

まつい しょう平（小三）

初かつお美味しくなつて帰省する

大垣市

田中 杏奈（小五）

風光るうすく広がる朝の雲

大垣市

高木 詩（小五）

かくしてた小さなお手紙母の日に

大垣市

南瀬 杏奈（小六）

初夏の日の木々と深まる葉のにおい

大垣市

田中 咲希（小六）

選者吟

はじけ飛ぶそら豆のごと反抗期

まさる



小中学生の部